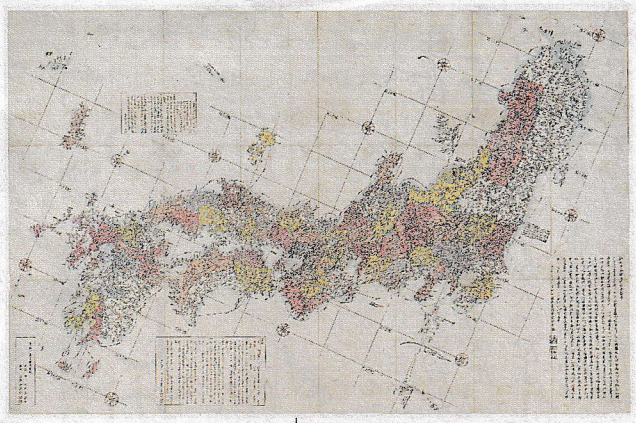
ニュースフラッシュ

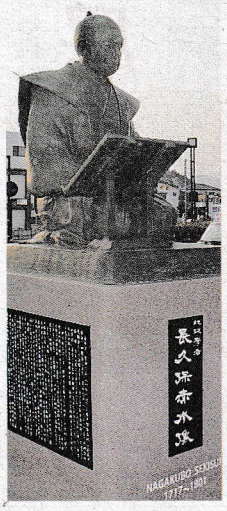
伊能忠敬だけじゃない

江戸時代の地理学者・長久保赤水

日本地図の先駆者、功績評価



長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」（高萩市教育委員会提供）



JR高萩駅前にある長久保赤水像＝茨城県高萩市

茨城県高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）が近年、知名度を上げている。初めて実測で日本地図を作った伊能忠敬より42年早く、情報収集による精度の高い「赤水図」を作り、庶民や後世の知識人に広めた功績が評価され始めた。

赤水は高萩市赤浜の農家生まれで、幼い頃に両親を亡くした。親族に育てられながら、学問に興味を持ち、水戸藩の学者らの下で儒学や天文学、地理学を学んだ。30代半ばで正確な日本地図を作ろうと決意し、情報収集や各地の旅を経て、52歳で初めての地図を完成。功績が認められ水戸藩主の侍講になった。

赤水の地図は天文学を取り入れたことで、日本で初めて経線と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中でも1779年に初版が完成した「改正日本輿地路程全図」（通称・赤水図）は実用性が高く、江戸時代の庶民に広く流通した。幕末の志士を育んだ吉田松陰（1830～59年）が兄に宛てた手紙には「これが無くては不自由」と、赤水図を旅に役立てていたことが記されている。

1821年に完成した伊能忠敬の地図は、伊能自らが実際に各地を歩き歩幅で測量したことで有名。一方で赤水は、自分で集めた地名などの情報を地図に盛り込んだため、内陸の情報も豊富だ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（70）は「友人が多く、旅人にもお茶をごちそうして話を聞くなど、情報収集能力にたけていた」と強調する。

赤水の関連資料693点は、2017年に県指定有形文化財になるなど徐々に価値を評価され、国の文化審議会は今年3月、同資料を国の重要文化財に指定するよう文部科学相に答申した。

さらに知名度を上げようと顕彰会は同月、赤水が地図に書き残した不思議な海上現象を元にした絵本「りゅうのひかり」を出版。縦約84センチ、横約128センチの赤水図のレプリカ発行を目指し、資金300万円をクラウドファンディングで募る。

佐川さんは「世界で通用する、誇れる先人の一人。地理の歴史の中に赤水図をしっかり位置付けたい」と語り、将来的には大河ドラマ化も目指している。

NEWS FLASH

■ 30歳ホッキョクグマ死ぬ

同園では

■ アルペンルート休止延長

■ 河井夫

自民党の
＝広島選挙
法違反事件
と夫の克行
院広島3区
意聴取して
者への取材
初当選した
り、広島県
を配った買
しており、
る。

■ 保護観

東京保護
で服役し仮
り、いった
観察官が面
時ごろに
た。男は
長171.5
白と黒の
た。裁判所
け、所在を

■ ふるさ

ふるさ
で、担当職
奈半利町か
税の新制度
審査の際、
価格を実際
書類を作り
とが9日、
で分かった
梱包代を除
いた。

■ 速水け

新型コ
入院してい
けんたろう